

連携医療機関情報の定型ファイル化とマップ作成

～スムーズな逆紹介への取り組み～

植村 悦子, 金谷 春美, 斉藤 広美, 高階 聖美, 古家 乾
五十嵐慶一, 池田 雄祐

北海道社会保険病院 地域医療連携室

Key Words :

地域医療連携、紹介率、逆紹介率、地域支援病院、機能分化

要 旨

当院では、平成13年7月に「地域医療連携室」を開設したが、地域医療機関の情報不足が連携室運営上の問題となってきた。

患者と医師の双方が地域医療機関の詳しい情報を共有出来るツールがあれば、スムーズな逆紹介に役立つと考え、連携医療機関情報の定型ファイル化とマップの作成に取り組んだ。

作成・運用後の逆紹介率は20%前後に増加しており、持ち帰り用マップの利用数（印刷枚数）は最大週で280枚、週平均131枚である。利用枚数を地域別で比較すると、当院周辺地区の利用が多い。

当院医師からの問合せも、ファイル掲載機関に関しては無くなった。

以上の事から、今回の取り組みがスムーズな逆紹介に有効であったと考える。

Summary

Map and File of Clinic information
～For smooth reverse introduction～

Etsuko Uemura ¹⁾, Harumi Kanaya ¹⁾,
Hiromi Saitou ¹⁾, Kiyomi Takagai ²⁾,
Ken Furuya ³⁾, Keiichi Igarashi ³⁾,
Yusuke Ikeda ³⁾

- 1) Department of Nurse,
Hokkaido Social Insurance Hospital.
- 2) Department of Office Worker,
Hokkaido Social Insurance Hospital.
- 3) Department of Doctor,
Hokkaido Social Insurance Hospital.

はじめに

厚生労働省が昨年8月に発表した『医療提供体制の改革ビジョン』の中で、今後は地域ニーズを踏まえた機能分化が重要になる¹⁾とあり、急性期病床における地域医療連携の強化がますます必要となる事が明らかである。

北海道では、平成12年度から地域連携室を開設する医療機関が急増し、今年度は90施設を超えるとき

れている。(図1)

診療報酬の面では、2000年に「紹介外来加算」が新設され、今年度からは、地域支援病院承認の前提条件として、紹介率だけでなく逆紹介率も評価されるようになった。

当院では、平成13年7月に「地域医療連携室」を開設し、以来、平成15年9月までに、121施設の医療機関から、1,153件の患者紹介を頂いた。(図2)

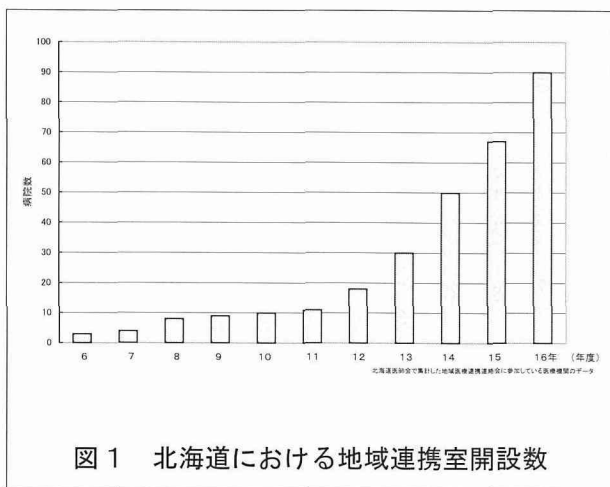


図1 北海道における地域連携室開設数

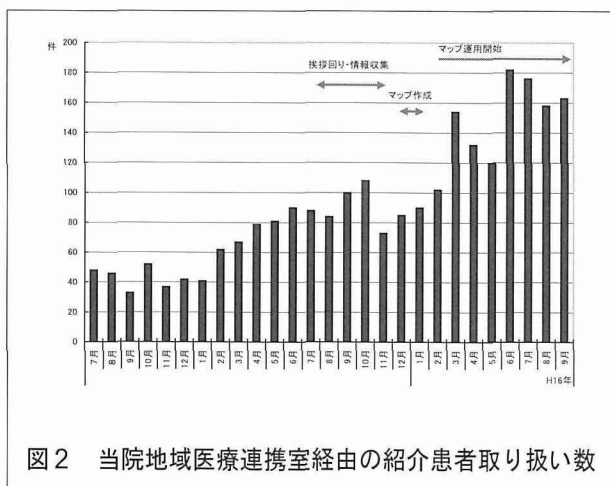


図2 当院地域医療連携室経由の紹介患者取り扱い数

しかし、診療所の医師から「逆紹介はしてもらえないのか？」との問い合わせや、患者から「自宅近くの診療所を紹介してほしい」との要望や、当院の医師からは「患者を紹介したいので診療所を探してほしい」といった様々な問い合わせや要望が増えてきた。

連携実績が少ない診療所を紹介する場合は、その都度、先方への問い合わせが必要であり、地域医療機関の情報不足が連携室運営上の問題となってきた。そこで、患者と医師の双方が地域医療機関の詳しい情報を共有出来るツールがあれば、スムーズな逆紹介に役立つと考え、連携医療機関情報の定型ファイル化とマップの作成に取り組んだ。

この取り組みと効果について報告する。

研究目的

連携医療機関情報の定型ファイル化とマップ作成の取り組みが、逆紹介率の向上に有効であったかを

評価する。

言葉の定義

〈逆紹介〉：病院から他の医療機関への紹介（紹介元へ、紹介元以外へ、紹介無しの患者を他院へ、のすべてを含む）

〈逆紹介率〉：逆紹介患者数（診療情報提供書料を算定した患者）÷初診患者数×100

研究方法

1. 研究期間：平成15年7月～平成16年9月までの15ヶ月間とした。
2. 収載診療所の選定：当院への紹介実績がある診療所を含め、平成15年7月8日から7月19日の期間に当院医師45名に「紹介先医療機関情報提供依頼書」を配布・回収し、当院医師の意見・要望を基に244施設を選定した。
3. 診療所への挨拶回り：平成15年7月1日～11月28日の5ヶ月間、連携室職員が244件の診療所へ戸別訪問をし、①地域医療連携室を紹介②当院の診療機能を説明③診療所情報ファイルとマップ作成の主旨を説明④情報収集のためのアンケートを依頼した。（図3）
4. アンケート回収：FAXにてアンケートを回収し

先生 ご待史

拝啓 日頃は患者様ご紹介をはじめいろいろお世話になり感謝しております。さて、当院ではさらに重要となる病種連携・病態連携を強化し、地域の医療機能の分担と連携を図ることから「医療機関マップ」を作成する予定であります。当院から患者様をご紹介するにあたっての要件を把握するために、下記のご質問をさせていただきます。お忙しいなか大変恐縮ですが、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

医療機関マップ掲載を 了承する 了承しない

| | | | | | | | |
|---------|---|---|-------------|---|---|---|---|
| ふりがな | | | 診 察 棟棟科目 | | | | |
| 医療機関名 | | | | | | | |
| ふりがな | | | | | | | |
| 院長名 | | | | | | | |
| 住 所 | 〒 | | | | | | |
| 電話番号 | | | FAX番号 | | | | |
| 交通機関 | 最寄りの駅 地下鉄()駅より徒歩 分 バ ス()停留所下車徒歩 分 | | | | | | |
| 専門領域・疾患 | | | | | | | |
| 特 色 | | | | | | | |
| 病床 | 無・有()床 | | | | | | |
| 機能・機器類 | 1.リハビリ(物理療法・マッサージ・PT・OT・他)) 2.超音波診断装置(腹・心・他)) 3.X線装置(胸部・消化管・他)) 4.内視鏡(上部消化管・下部消化管) 5.その他 | | | | | | |
| 往 診 | 1. 実施 2. 否 3. ケースにより実施 | | | | | | |
| 訪問診療 | 1. 実施 2. 否 3. ケースにより実施 | | | | | | |
| 診療時間等 | 午前 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | 午後 | | | | | | |
| | 備考 | | | | | | |

※お手数ですが、FAXにてご返送ください。
北海道社会保険病院 地域医療連携室
TEL&FAX 0120-515-830

図3 アンケート

た。

5. 「連携医療機関情報ファイル」作成:平成15年12月から平成16年1月にかけて、マップ掲載を了承した診療所のアンケート内容から、専門分野、診療時間、医療機器、往診・訪問の可否、等の情報を整理し、86施設を収載した連携医療機関情報ファイルを作成した。(図4)

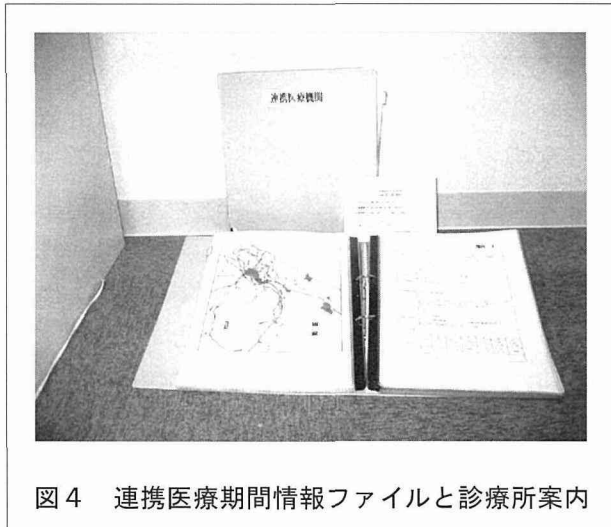


図4 連携医療期間情報ファイルと診療所案内

6. 「診療所案内」作成:当院の医師が紹介状と共に患者に渡せるように、診療所の住所・交通案内・診療時間等を定型化した「診療所案内」を作成し、連携医療機関情報ファイル内に収容し、医局・外来各科・救急室・全病棟に配置した。
7. 「連携医療機関マップ」作成:平成15年12月10日に連携医療機関マップ用案内板のパネル(1800×1200mm)を発注し、医療機関名をテプラで打ち込み、連携医療機関を地図に示した、札幌市内10区

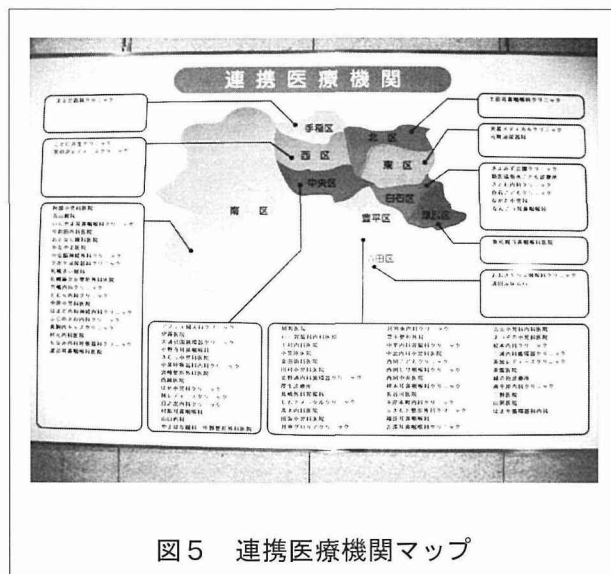


図5 連携医療機関マップ

の「連携医療機関マップ」を作成し、外来ロビーに掲示した。(図5)

8. 「持ち帰り用マップ」作成:患者が自由に持ち帰る事が出来るように、市内10区の、表は地図・裏は診療所情報一覧表、という「持ち帰り用マップ」を作成し、(図6)区域別に整理して、掲示したマップ横の専用ラックに常備した。(図7)
9. 運用前後の紹介率・逆紹介率を比較した。
10. 持ち帰り用マップの利用数(印刷枚数)を調査した。

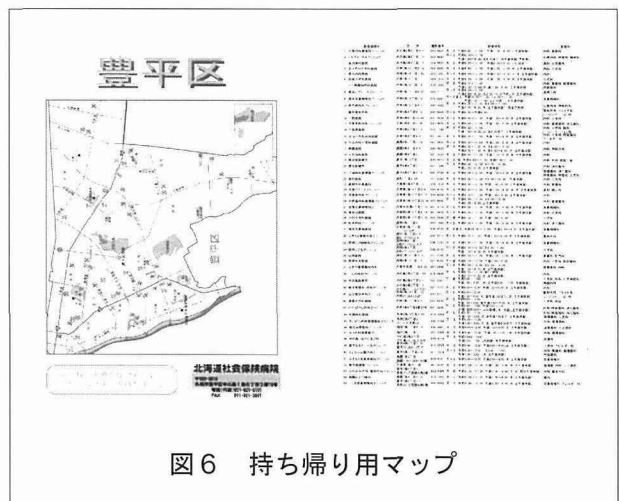


図6 持ち帰り用マップ



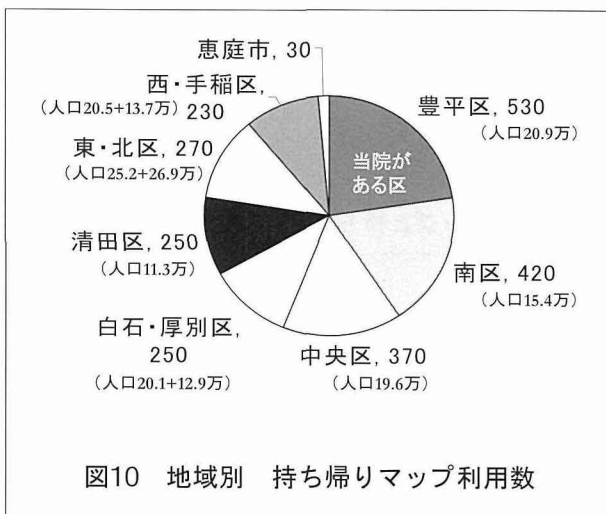
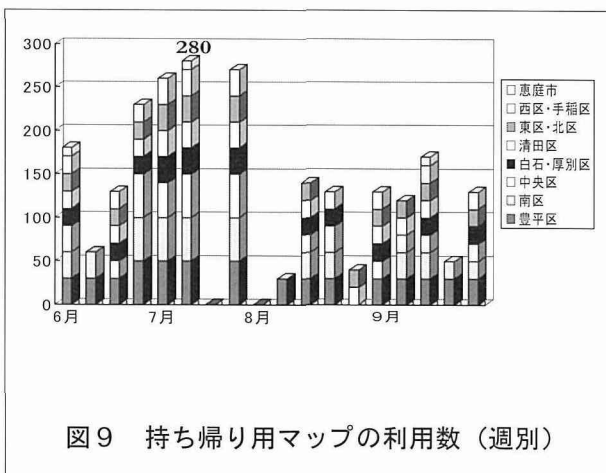
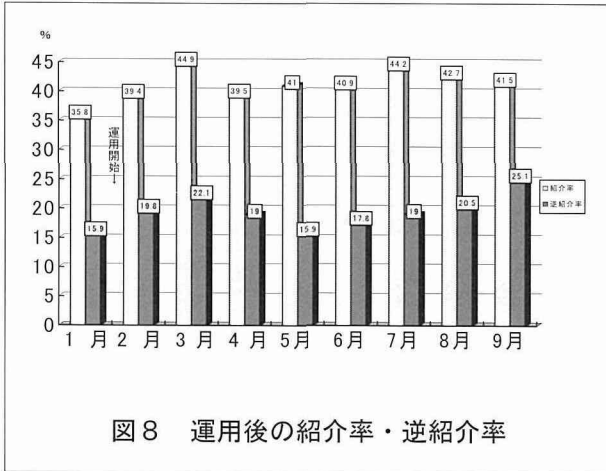
図7 マップと持ち帰り用マップ専用ラック

結果

1. 今年2月から運用を開始し、運用前後の紹介率・逆紹介率は、1月35.8%・15.9%、2月39.4%・19.8%、3月44.9%・22.1%、4月39.5%・19.0%、5月41%・15.9%、6月40.9%・17.8%、7月4.2%・19%、8月42.7%・20.5%、9月41.5%・25.1%と増加している。(図8)

2. 持ち帰り用マップの利用数（印刷枚数）は、最大週で280枚、週平均131枚である。（図9）

地域別の利用数を比較すると、当院がある豊平区が最も多く、次いで周辺地区の利用が多い。（図10）



考 察

今回の取り組み前後の逆紹介率を見ると増加しているが、20%前後というのは、まだまだ当院が患者を「抱え込んでいる」状況と言える。

福田²⁾の調査結果によると、『開業医が病院に望むこと』として、「紹介患者は返して欲しい」「近所に患者がいたら、逆に紹介して欲しい」「当院を宣伝して欲しい」等が挙げられる、とある。

今後、紹介率を下げない為にも、逆紹介率の向上は重要課題と言える。

「持ち帰り用マップ」は好評で、すぐに無くなってしまふ為、毎週のように補充をしている。

利用枚数を地域別で比較すると、当院周辺地区の利用が多く、マップが『かかりつけ医の推進』へ向けての患者啓蒙の一助になっていると考える。

今回の取り組みの中で、診療所への挨拶回りをしたり、完成したマップ・ファイルの写真を郵送したり、細かい部分を訂正して再度確認したり、といったやりとりを通じて、診療所の医師・職員との親近感が増した事は、データには表れていない「無形の効果」であり、「顔が見える連携」の強化に繋がったと考える。

また、運用開始後、掲載していない診療所の医師から「当院も掲載して欲しい」という要望が寄せられたため、新たに開業した診療所を含め、40件の診療所情報を追加し、全部で126件の情報を収載したマップとファイルへと作り直して、再度、掲示し、各部署に配置した。

また、運用後、収載されている診療所に関しては、当院医師から連携室への問い合わせが無くなった事からも、今回の取り組みが、スムーズな逆紹介へ有効であったと考える。

結 論

連携医療機関情報の定型ファイル化とマップ作成の取り組みは、逆紹介率の向上に有効であった。

おわりに

今後は、より活用しやすいファイルとマップの充実を図ると共に、「逆紹介率の向上」「かかりつけ医の推進」へ向けて、逆紹介システムの構築に取り組む事が、今後の地域医療連携室の課題であると考えられる。

先生 ご侍史

拝啓 日頃は患者様ご紹介をはじめいろいろとお世話になり感謝しております。

さて、当院ではさらに重要となる病病連携・病診連携を強化し、地域の医療機能の分担と連携を図ることから「医療機関マップ」を作成する予定であります。

当院から患者様をご紹介するにあたっての要件を把握するために、下記のご質問をさせていただきたいと存じます。

お忙しいなか大変恐縮ですが、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬 具

記

医療機関マップ掲載を 了承する 了承しない

| | | | | | | | |
|---------|---|---|-------------|---|---|---|---|
| ふりがな | | | 診 療 標榜科目 | | | | |
| 医療機関名 | | | | | | | |
| ふりがな | | | | | | | |
| 院長名 | | | | | | | |
| 住 所 | 〒 | | | | | | |
| 電話番号 | | | FAX番号 | | | | |
| 交通機関 | 最寄の駅 地下鉄 () 駅より徒歩 分 バ ス () 停留所下車徒歩 分 | | | | | | |
| 専門領域・疾患 | | | | | | | |
| 特 色 | | | | | | | |
| 病 床 | 無・有 () 床 | | | | | | |
| 機能・機器類 | 1. リハビリ(物理療法・マッサージ・PT・OT・他) 2. 超音波診断装置(腹・心・他) 3. X線装置(胸部・消化管・他) 4. 内視鏡(上部消化管・下部消化管) 5. その他 | | | | | | |
| 往 診 | 1. 実施 2. 否 3. ケースにより実施 | | | | | | |
| 訪問診療 | 1. 実施 2. 否 3. ケースにより実施 | | | | | | |
| 診療時間等 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | 午前 | | | | | | |
| | 午後 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |

※お手数ですが、FAXにてご返送ください。
北海道社会保険病院 地域医療連携室
TEL&FAX 0120-515-830

引用・参考文献

- 1) 田城孝雄：地域医療連携 平成18年の大改革に向けて、日総研出版、P12、P112、2004
- 2) 福田明男：病診連携 ～ Step by Step ～ 日本看護協会主催「退院調整と看護」資料
- 3) 山崎裕恵：病院から地域へのケアの継続、家族看護03、V 01.02/No.01, 日本看護協会出版会、2004